

## 説明書

(令和5年9月21日作成)

### ・不誠実対応-31

悠生君の母親(清水亜佳里)が、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)に対し、電話で怒りをぶつけた時は、大きな河(神崎川)で悠生君が行方不明になり、見つからないまま数日が過ぎた状況であった。その数日後には雨との予報も出ており、悠生君が海に流されてしまう可能性も出てきた。

悠生君の家族としては、命を落としてしまった上に悠生君に二度と会えないのではないかと絶望感に苛まれていた。

そのような状況下、安全対策を怠り、悠生君を行方不明にしたアルプスの森(施設長:宇津慎史)は、行方不明の悠生君の捜索に総力をあげて対応することはせず、通常運営を続けた。

多くの支援学校の先生方や、保護者の方々、他のデイサービスの方々が警察や消防と一緒に色々と検討しながら必死に捜索活動を行っていたが、その協力体制のメンバーにアルプスの森(施設長:宇津慎史)関係者はいなかった。(不誠実対応-25)参照

従って、悠生君に二度と会えないのではないかと言う絶望感と、施設側のあまりに続く不誠実な対応が、清水亜佳里に電話で怒りを宇津雅美に対してぶつけさせた。怒りをぶつけることで、アルプスの森(施設長:宇津慎史)の不誠実対応の改善を望んだ。

しかしながら、アルプスの森(施設長:宇津慎史)の不誠実な対応は、この遺族の怒りの訴えに対しても同様に行われた。

この遺族の怒りの訴えを、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は恫喝と捉え(不誠実対応-20参照)、施設長(宇津慎史)は暴言と捉えた。

(音声ファイル-31[1]) [0:00:00]⇒[0:00:33]

(音声ファイル-31[2]) [0:00:00]⇒[0:00:46]

### (主な会話内容)

(音声ファイル-31[1]) [0:00:00]⇒[0:00:33]

[0:00:00] 悠生君の母親(清水亜佳里)

私達はただ子供に会いに来て欲しかった。

[0:00:02] 施設長(宇津慎史)

あのですね、私には、兄にああ言う言葉を発せられた事に関して…、被害者、お子様を亡くされた気持ちは十分に解ります。

でもヒトとして、

[0:00:14] 悠生君の父親(清水悠路)

でも(ヒトとして)、見つかったその当時に、そのタイミングで(3回も、兄に酷い事を言いましたよねって)できるものなのですね。

[0:00:18] 悠生君の母親（清水亜佳里）

まず子供に会うのが先じゃないのですか？

だって親は、ここに預けたのですよ。信じて…

ここで会わなければいつあうのですか？

[0:00:27] 悠生君の父親（清水悠路）

会うって約束を3時にはしているのですよ

[0:00:30]

「解りましたって、1回、電話を切っているのですよ。雅美さんは…」

(音声ファイル-31[2]) [0:00:00]⇒[0:00:46]

[0:00:00] (悠生君の母親:清水亜佳里)

子供に会わなければいつあうのですか？その時じゃなきゃもうないじゃないですか？いつ会うつもりだったのですか？じゃ～聴きますけど…

だって子供に今(見つかった当時)会わないと…、あの子、元気だったのに

それが変わり…、冷たい水ね。何日間も居てよ。

[0:00:19] (施設長:宇津慎史)

私は、私と兄が行きますとはっきり言ったつもりです。いいました。その時に一応、前日の事があるので、私達だけがあってまた警察署で同じような事の**暴言**、繰り返されると、それはちょっと…

[0:00:36] (悠生君の母親:清水亜佳里)

あの子供をね、持っているから僕はわかる。親の気持ちがわかるって言っていましたよ。

宇津雅美さんは…。そうしたら親の気持ちわかるのどこがいますか？

[0:00:46] (施設長:宇津慎史)

申し訳ないのですけど…、まあ～何て言うのですかね。

### (上記会話の問題点)

息子の命を奪い行方不明にした施設(アルプスの森)の、あまりにも不誠実で無責任な対応に対する遺族からの怒りの電話を、児童発達支援責任者(宇津雅美)は恫喝と捉え、施設長(宇津慎史)は暴言と捉えた。

息子の命を奪った施設の責任者とは考えられない行動を、宇津兄弟(宇津雅美及び、宇津慎史)は取り続けている。

この宇津兄弟(宇津雅美及び、宇津慎史)の行動は、「障害児の命を奪った事」は、自分が「遺族から怒りを買う」には値しないと考えていることを示している。障害者を扱う福祉施設に最もいてはいけない人物であることを立証するものであると、遺族は考えている。